

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第7週 （2月11日～2月17日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は第6週の22.21から第7週は10.42と急減していますが、2週連続で注意報値を超えています。県全域から報告があり、全ての地域で急減または減少していますが、幡多、高知市、須崎では注意報値を超えていますので引き続き注意してください。

学校等における集団発生の報告でも学年閉鎖の報告が続いています。

高知県保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2019年第7週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	第7週		第6週		第5週		第4週		第3週		第2週	
	定当	状況										
高知県全域	10.42	○	22.21	○	37.60	△	51.02	△	66.00	△	50.19	△
安芸	3.75	-	6.75	-	18.50	○	24.75	○	33.00	△	14.50	○
中央東	8.64	-	23.73	○	36.09	△	55.82	△	65.18	△	46.00	△
高知市	11.25	○	23.94	○	43.69	△	59.00	△	82.56	△	60.94	△
中央西	7.40	-	19.40	○	34.80	△	53.00	△	70.40	△	66.20	△
須崎	10.75	○	24.25	○	39.75	△	47.75	△	47.50	△	38.75	△
幡多	16.25	○	25.13	○	37.75	△	42.00	△	57.00	△	48.00	△

注意報値：○（10以上30未満） 警報値：△（30以上）

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
		学級閉鎖	第7週					
	累計		4	41	2	1	2	50
学年閉鎖	第7週			1			1	2
	累計	2	11	7	8	7	7	42
休校	第7週							0
	累計				1			1

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型が477件、インフルエンザB型が4件の報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名「インフルエンザ」として搬入された検体からInfluenza virus A H3 NTが2例、Influenza virus A H1pdm09が1例検出されています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2019年第2週～第6週）では、AH3の検出割合が最も多く55.2%、次いでAH1pdm09が43.6%、B（ビクトリア系統）が0.8%、B（山形系統）が0.3%、B（系統不明）0.1%の順でした。

減少してきていますが、インフルエンザは流行中となっていますので、外出後の手洗いなどの感染予防を心がけ、症状がある方は、咳エチケットに心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も有効です。感染力は非常に強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

＜予防方法＞ 手洗いと咳エチケットを心がけましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- （1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- （2）咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- （3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。

●厚生労働省「インフルエンザ総合ページ」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleenza/index.html

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第6週の5.83から第7週では4.47と減少しています。県全域から報告があり、須崎で急減、中央西、幡多で減少していますが、安芸で急増しています。

学校欠席者・感染症情報システム※でも15例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス 2 例、細菌の病原性大腸菌 4 例、カンピロバクター菌属 2 例や「胃腸炎は流行している」の報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名「感染性胃腸炎」として搬入された検体から Norovirus GII NT が 1 例、Astrovirus NT が 1 例、臨床診断名「なし」として搬入された検体から Norovirus GII NT が 1 例、Sapovirus genogroup unknown が 1 例検出されています。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1 年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は 1 週間以内に回復しますが、症状消失後も 1 週間程度、長いときには 1 ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

＜予防方法＞ 感染予防の基本は手洗いです

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

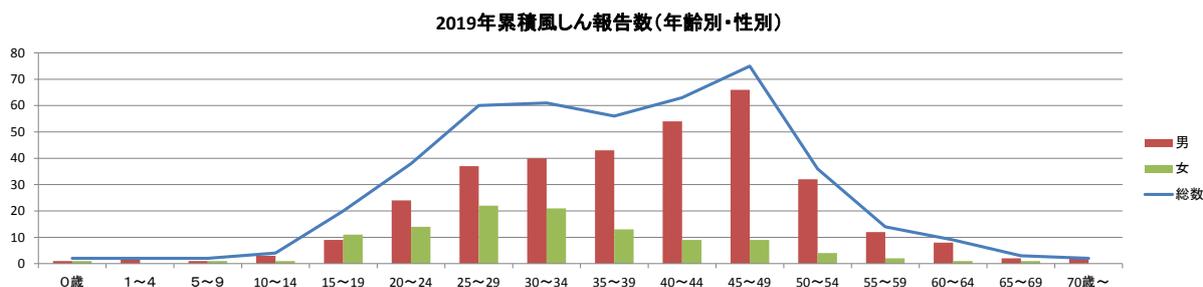
●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2019 年第 1 週～6 週の報告数は 447 人となっており（2018 年の同時期全国で 2 人）、93%（417 人）が成人で、30 歳から 50 歳代の男性を中心に（男性 336 人、女性 110 人、1 人不明）に報告数の多い状態が継続しています。



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、大阪府、福岡県以外に埼玉県、兵庫県、愛知県、三重県、佐賀県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなど今後さらなる注意・予防に努めましよう。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ

感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染

潜 伏 期 間 : 2～3 週間程度

感染性のある期間: 発疹のでる 7 日前から発疹出現後 7 日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1歳児、小学校入学前1年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠20週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
 - ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。
- 風しん Q&A 2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>
 - 風しんについて（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/
 - 衛研ニュース第20号（高知県衛生研究所）30～50歳代の男性！風しんのことを知ってますか？
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

○麻しんに気を付けて！

麻しんは空気感染をし、強い感染力をもち、免疫が無い場合はほぼ100%感染すると言われています。

2019年第1週～6週の全国の麻しんの報告数は167例です（2018年の同時期全国で2例）。特に、報告数が多い県は三重県49人、大阪府47人です。三重県と大阪府では感染拡大防止の注意喚起がなされています。予防にはワクチン接種が有効です。定期接種の対象年齢になったら、予防接種を受けましょう。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！



【日本紅斑熱・SFTS】

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かい春から秋にかけて盛んに活動し、この期間に多くの患者発生がみられますが、冬でも発生例が報告されています。寒い季節ですが、屋外で活動される場合はマダニ対策を心がけましょう（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。

マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。

地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。

活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

【つつが虫病】

「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑ : 急増
 ↗ : 増加
 → : 横ばい
 ↘ : 減少
 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↓	10.42	県全域、高知市、須崎、中央東、中央西で急減、幡多、安芸で減少していますが、県全域、幡多、高知市、須崎では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↘	4.47	須崎で急減、県全域、中央西、幡多では減少していますが、安芸では急増しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	1.20	幡多、安芸、中央西で急減、県全域、高知市、中央東では減少していますが、須崎では増加しています。
RSウイルス感染症	↑	0.53	県全域、幡多、高知市で急増、中央西で増加しています。
咽頭結膜熱	↑	0.20	県全域、須崎、中央東で急増し、須崎では注意報値を超えています。

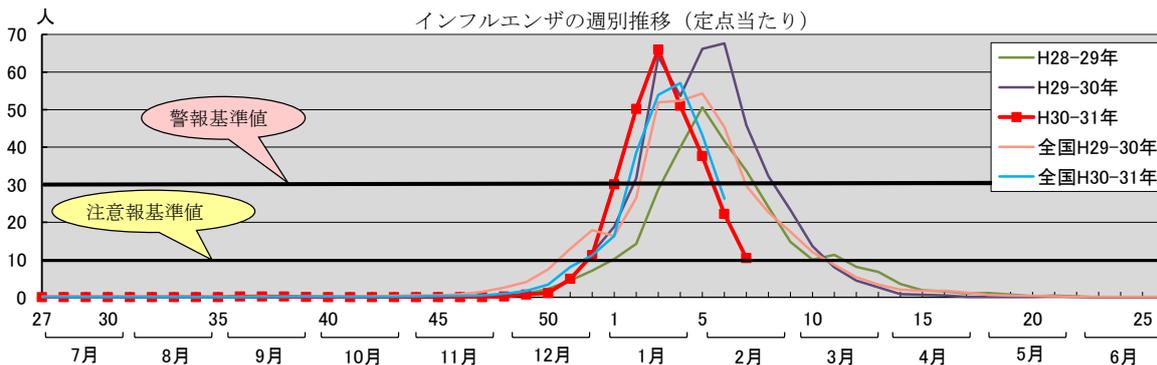
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

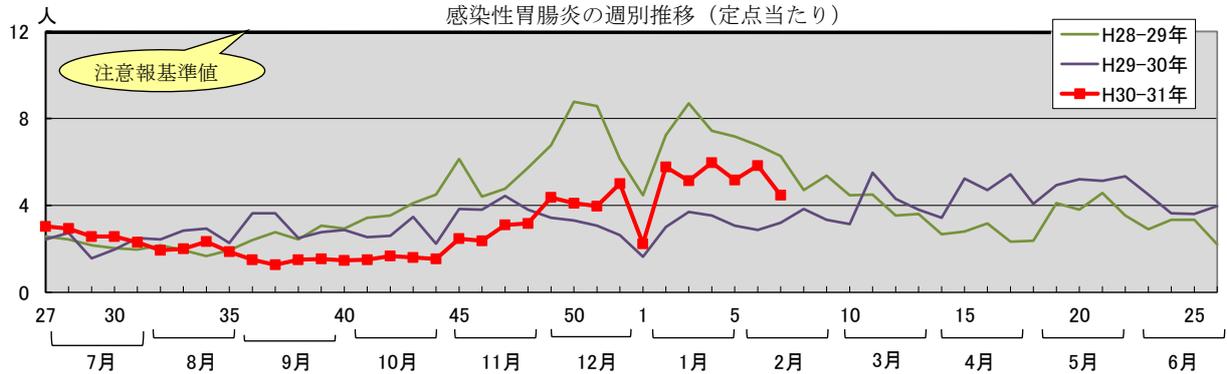
○インフルエンザ 第7週：10.42（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 10.42（前週：22.21）と急減しています。高知市 11.25（前週：23.94）須崎 10.75（前週：24.25）中央東 8.64（前週：23.73）中央西 7.40（前週：19.40）で急減、幡多 16.25（前週：25.13）安芸 3.75（前週：6.75）で減少し、県全域、幡多、高知市、須崎で注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第7週：4.47（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.47（前週：5.83）と減少しています。須崎 1.50（前週：9.50）で急減、中央西 7.67（前週：9.67）幡多 3.40（前週：5.60）で減少していますが、安芸 4.00（前週：2.00）で急増しています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
7	感染性胃腸炎	39℃,下痢,嘔吐,嘔気,腹痛,	3	女	須崎	Astrovirus NT
7	不明発疹症	39℃,発疹,	1	男	高知市	Human herpes virus 6
7	-	-	3	女	高知市	Human herpes virus 6
7	上気道炎	40℃,嘔吐,嘔気,上気道炎,	1	女	高知市	Human metapneumovirus
7	インフルエンザ	39℃,咳嗽,	2	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
7	インフルエンザ	39℃,咳嗽,上気道炎,下気道炎,	1	男	幡多	Influenza virus A H3 NT
7	インフルエンザ	38℃,咳嗽,上気道炎,	7	女	幡多	Influenza virus A H3 NT
7	-	下痢,嘔吐,嘔気,	1	男	高知市	Norovirus GII NT
7	感染性胃腸炎	嘔吐,嘔気,腹痛,咳嗽,	2	男	須崎	Norovirus GII NT

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
6	-	38℃,	1	女	高知市	Sapovirus genogroup unknown

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	5	80歳代 女	高知市	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	3	20歳代 女	中央東	
	百日咳		1	24	5~9歳 男	高知市
			1		5~9歳 男	須崎
			1		5~9歳 女	
			1		5~9歳 女	
			1		5~9歳 女	
1	40歳代 女					

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	おひさまこどもクリニック	病原性大腸菌 O-8 腸炎 1 例 (10 歳女)
	早明浦病院小児科	アデノウイルス感染症 2 例 (大豊町) 溶連菌感染症 1 例 (本山町)
	野市中央病院小児科	インフルエンザ 4 例 (いずれも迅速キット A 型 : ワクチン接種済み 2 人)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 1 例 (1 ヶ月女) インフルエンザ A 型 3 例
	けら小児科・アレルギー科	病原性大腸菌 O-167 腸炎 1 例 (17 歳) 病原性大腸菌 O153 腸炎 1 例 (8 歳) 病原性大腸菌 O-125 腸炎 1 例 (17 歳) カンピロバクター腸炎 2 例 (17 歳、18 歳)
	細木病院小児科	ノロ 2 例 (9 ヶ月女、3 歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ A 型 17 例 (内ワクチン接種済み 4 例) 溶連菌感染症 2 例 胃腸炎は流行している
	ふないキッズクリニック	インフルエンザ A 型 2 回感染 1 例 (9 歳女 : 1 月上旬と第 7 週)
中央西	石黒小児科	帯状疱疹 1 例 (8 歳男)
	くぼたこどもクリニック	ヘルペス性歯肉口内炎 1 例 (2 歳女) アデノウイルス感染症 2 例 (11 ヶ月男、1 歳男) インフル A 型 1 例 (2 歳男 : 須崎市)
	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎 4 例 (1 歳男 3 人、1 歳女)
須崎	もりはた小児科	流行性角結膜炎 1 例 (2 歳女) 水痘 1 例 (9 歳女 : ワクチン未接種、クラスメイトから感染)
幡多	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 2 例 (3 ヶ月女、2 歳男)
	さたけ小児科	インフルエンザ 31 例 (全て A 型)

★全国情報

第5号 (1月28日～2月3日)

1類感染症 : 報告なし

2類感染症 : 結核296例

3類感染症 : 細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症11例、腸チフス1例、パラチフス2例

4類感染症 : E型肝炎11例、A型肝炎4例、コクシジオイデス症1例、つつが虫病5例、デング熱5例
日本紅斑熱1例、レジオネラ症27例

5類感染症 : アメーバ赤痢7例、ウイルス性肝炎6例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症26例

急性弛緩性麻痺1例、急性脳炎23例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症15例、後天性免疫不全症候群15例

侵襲性インフルエンザ菌感染症11例、侵襲性肺炎球菌感染症60例、水痘 (入院例に限る) 4例

梅毒63例、播種性クリプトコックス症5例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症4例

百日咳236例、風しん67例、麻しん23例、薬剤耐性アシネトバクター感染症2例

削除予定 : 麻しん6例

報告遅れ : 腸管出血性大腸菌感染症1例、A型肝炎1例、エキノコックス症1例、つつが虫病1例、

デング熱1例、レジオネラ症2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症20例

急性弛緩性麻痺2例、急性脳炎21例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症8例

水痘 (入院例に限る) 3例、梅毒64例、播種性クリプトコックス症1例、百日咳131例

風しん14例、麻しん5例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第7週 平成31年2月11日(月)～平成31年2月17日(日)

高知県衛生研究所

定点 疾病名	保健所	第7週						計	前週	全国(6週)	高知県(7週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H30/12/31～H31/2/17	全国(6週末累計) H30/12/31～H31/2/10
ウイルス コブ	インフルエンザ	15	95	180	37	43	130	500 (10.42)	1,066 (22.21)	129,989 (26.28)	12,842 (267.54)	1,166,954 (236.51)
小児科	咽頭結核熱		2			2	2	6 (0.20)	3 (0.10)	1,049 (0.33)	30 (1.00)	5,891 (1.87)
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	1	5	23	1	3	3	36 (1.20)	63 (2.10)	7,984 (2.52)	325 (10.83)	39,510 (12.55)
	感染性胃腸炎	8	22	61	23	3	17	134 (4.47)	175 (5.83)	19,063 (6.03)	1,037 (34.57)	115,748 (36.76)
	水痘			1		1		2 (0.07)	6 (0.20)	918 (0.29)	50 (1.67)	6,757 (2.15)
	手足口病							()	1 (0.03)	409 (0.13)	12 (0.40)	2,551 (0.81)
	伝染性紅斑	1	1	2				4 (0.13)	10 (0.33)	1,813 (0.57)	73 (2.43)	14,049 (4.46)
	突発性発疹		1	3			1	5 (0.17)	6 (0.20)	925 (0.29)	47 (1.57)	5,465 (1.74)
	ヘルパンギーナ	1						1 (0.03)	()	47 (0.01)	4 (0.13)	282 (0.09)
	流行性耳下腺炎							()	2 (0.07)	291 (0.09)	4 (0.13)	1,660 (0.53)
	RSウイルス感染症			4	4		8	16 (0.53)	6 (0.20)	1,341 (0.42)	52 (1.73)	7,252 (2.30)
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	11 (0.02)	()	42 (0.06)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	()	444 (0.64)	7 (2.33)	2,917 (4.20)
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	14 (0.03)	()	65 (0.14)
	無菌性髄膜炎							()	()	11 (0.02)	()	60 (0.13)
	マイコプラズマ肺炎			3				3 (0.38)	()	88 (0.18)	16 (2.00)	655 (1.36)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	2 ()	1 (0.13)	12 (0.03)
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	1 (0.13)	60 (0.13)	6 (0.75)	226 (0.47)
計 (小児科定点当たり人数)	26 (9.25)	126 (13.06)	278 (19.79)	65 (16.73)	52 (15.25)	161 (22.45)	708 (17.22)			164,459	14,506 (322.00)	1,370,096
前週 (小児科定点当たり人数)	39 (12.75)	300 (29.30)	499 (34.38)	138 (33.07)	119 (35.25)	244 (33.73)		1,339 (31.27)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

第7週

定点 疾病名	保健所	第7週						計	前週	全国(6週)	高知県(7週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H30/12/31～H31/2/17	全国(6週末累計) H30/12/31～H31/2/10
ウイルス コブ	インフルエンザ	3.75	8.64	11.25	7.40	10.75	16.25	10.42	22.21	26.28	267.54	236.51
小児科	咽頭結核熱		0.29			1.00	0.40	0.20	0.10	0.33	1.00	1.87
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	0.50	0.71	2.09	0.33	1.50	0.60	1.20	2.10	2.52	10.83	12.55
	感染性胃腸炎	4.00	3.14	5.55	7.67	1.50	3.40	4.47	5.83	6.03	34.57	36.76
	水痘			0.09		0.50		0.07	0.20	0.29	1.67	2.15
	手足口病							()	0.03	0.13	0.40	0.81
	伝染性紅斑	0.50	0.14	0.18				0.13	0.33	0.57	2.43	4.46
	突発性発疹		0.14	0.27			0.20	0.17	0.20	0.29	1.57	1.74
	ヘルパンギーナ	0.50						0.03	()	0.01	0.13	0.09
	流行性耳下腺炎							()	0.07	0.09	0.13	0.53
	RSウイルス感染症			0.36	1.33		1.60	0.53	0.20	0.42	1.73	2.30
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	0.02	()	0.06
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	()	0.64	2.33	4.20
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	0.03	()	0.14
	無菌性髄膜炎							()	()	0.02	()	0.13
	マイコプラズマ肺炎			0.60				0.38	()	0.18	2.00	1.36
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()		0.13	0.03
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	0.13	0.13	0.75	0.47
計 (小児科定点当たり人数)	9.25	13.06	19.79	16.73	15.25	22.45	17.22			322.00		
前週 (小児科定点当たり人数)	12.75	29.30	34.38	33.07	35.25	33.73		31.27				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年2月18日現在の情報により作成
しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあ
りますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)：平成 31 年第 7 週
 グラフダウンロード：[第 7 週](#)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第7週)

